

引用文献

- 会田薫子. (2015). 長寿時代のエンドオブライフ・ケア. 日本腎不全看護学会誌, 17(1), 37-44.
- 赤池こずえ. (1999). ストーマケアとオストメイト QOL 調査票の開発と活用法—査票の開発と活用法—イト 4.ア指導いただきました聖路加国際大学
- 赤木由人, 衣笠哲史, 白水和雄, 海田真治子, 高木孝実, 平川道子. (2012). 消化管ストーマにおける合併症の文献的検討. 日本ストーマ・排泄会誌, 28(2), 5-10.
- 天野こず江, 佐藤文, 松井優子, 西村元一. (2015). パニツムマブが関連すると考えられるストーマ周囲皮膚障害の一例. 日創傷オストミー失禁管理会誌, 19(2), 258.
- 青木和恵 (監修). (2005). <http://gansupport.jp/article/measure/measure12/3480.html>. 参照日: 2015年4月18日, 参照先: がんサポート(ストーマ・ケアのコツをおさえて、元気に、快適に): <http://gansupport.jp/article/measure/measure12/3480.html>
- 青木和恵, 石久保雪江. (2005). なぜ今、専門外来が必要とされているのか. インターナショナルナーシングレビュー, 28(1), 50-54.
- 青柳秀昭, 岩田友子, シュワルツ史子, 菊内由貴. (2015). 平成 27 年度 がん看護専門看護師海外研修助成事業 平成 27 年度海外研修報告. 日がん看会誌, 29(3), 85-88.
- 浅妻由香里, 藤村樹里, 依田寛子, 清水和彦. (1999). 障害のある高齢者の QOL と障害受容の関係 -主観的 QOL と客観的 QOL の対比-. 北里理学療法学, 2, 1-6.
- 浅子恵利, (監修). (2011). 手足症候群の予防と対策. (株式会社 エビデンス) 参照日: 2015年6月28日, 参照先: がんサポート: <http://gansupport.jp/article/treatment/anti/anti01/3693.html>
- 荒井秀典. (2014). フレイルに関する日本老年医学会からのステートメント. 参照日: 2014年12月4日, 参照先: 日本老年医学会: http://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20140513_01_01.pdf
- 朝田 隆. (2015). 認知症 500 万人時代. 日本早期認知症学会誌, 8(1), 20-21.
- 朝日 隆 (研究代表者). (2013年7月18日). 概要版 報告書本文 文献番号 201218011. 参照日: 2016年6月24日, 参照先: 厚生労働科学研究成果データベース: <https://mhlw-grants.niph.go.jp/niph/search/NIDD00.do?resrchNum=201218011>
- 安藤嘉子 a. (2013). セルフケア指導の実際. 著: 松島康子 編, ストーマケア実践ガイド 東京: 学研メディカル 90-96.

- 安藤嘉子 b, 福嶋智子. (2014). 訪問看護師の情報提供・相談内容から見えるストーマ保有者の療養上の問題. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌, 30(1), 95.
- A.W.GooszenJ.Hermans, M.B.Lagaay, H.G.Gooszen.R.H.Geelkerken,. (2000). Quality of Life with a Temporary Stoma Ileostomy vs. Colostomy. Dis Colon Rectum, 43(5), 650-655.
- BurchJennie. (2009). What dose enhanced recovery mean for the community nurse? Brirish Jornal of Community Nursing, 14(11), 490-494.
- BurgdortKStefan, RosenbergJacob. (2012). Short Hospital Stay after Laparoscopic Colorectal Surgery without Fast Track. Minim Invasive Surg, 19, PMC3506894.
- CarlssonEva, BerndtssonIna, HallenAnne-Marie, LindholmElisabet, PerssonEva. (2010). Concerns and Quality of Life Before Surgery and During the Recory Period in Patients With Rectal Cancer and Ostomy. J Woun Ostomy Continece Nurs., 37(6), 654-661.
- CleggA, YoungJ, IliffeS, alet. (2013). Frailty in elderly people. Lancet, 752-762.
- Collard R.M.,Borter H., Schoevers R.A., et al(2012). Prevalence of frailty in community-dwelling older persons: a systematic review. J. Am. Geriatr.Soc., 60, 1487-1492.
- 大腸癌研究会. (2014年1月10日). 大腸癌治療ガイドライン 医師用 2014年版. 参照日: 2016年5月5日, 参照先: 大腸癌研究会: http://www.jscrr.jp/guideline/2014/index_guide.htm
- 大腸癌研究会. (2015). 大腸癌治療ガイドライン. 参照日: 2015年12月12日, 参照先: 大腸癌研究会: <http://www.jscrr.jp/guideline/2014/particular.html>
- 独立行政法人国立がんセンターがん対策情報センター. (2012). がんの冊子 各種がんシリーズ 大腸がん (第 第 2 版 版). 独立行政法人国立がんセンターがん対策情報センター.
- ElliotLisa. (2005). イギリスの外来看護業務の新たな方向. インターナショナルナーシングレビュー, 28(1), 55-58.
- がん研究振興財団. (2016年3月). がん統計 2015年版. 参照日: 2016年5月5日, 参照先: がん研究振興財団: http://www.fpcr.or.jp/pdf/p21/cancer_statistics_2015.pdf
- Grant MB, Dean G, Uman G, Chu D, Krouse RFerrell. (2004). Revision and psychometric testing of the City of Hope Quality ofLife-Pstmy Qeationnaire. Qual LIf Res, 13(8), 1445-1457.
- 畠山義子, 登坂有子, 浦野理香. (2004). 在院日数短縮化のストーマリハビリテーションへの影響 -98施設の実態調査から-. 日本ストーマ学会誌, 20(1), 45-50.
- 福原俊一、鈴嶋よしみ、尾藤誠司、他. (2001). SF-36 日本語マニュアル(ver1.2). (財)パブリックヘルスリサーチセンター.

- 福原毅.(1989). 腹壁の解剖生理. 著: ストーマリハビリテーション講習会実行委員会, ストーマケア 基礎と実際. 東京: 金原出版. 16-17.
- 福岡美智.(2011). 下部直腸癌に対する一時的人工肛門造設患者の在院日数短縮化への看護援助の考察. 27(1), 82.
- 藤井公人, 駒屋憲一, 河合悠介, 服部弘太郎, 小林一郎, 森浦滋明, ほか.(2008). QOL評価からみたストーマ造設後患者の現状. 東海ストーマ会誌, 28(1), 42-46.
- 藤井京子, 伊藤美智子.(2003). セルフケア指導. 著: 伊藤美智子(編), ストーマケ. 東京: 学研, 70-73.
- 藤本由美子, ほか.(1997). 人工肛門保有者のべんもれの有無とQOLの関連. 日本ET協会学術雑誌, 1(2), 16-17.
- 藤本由美子, 坪井康次, 穴沢貞夫, 進藤勝久, 石原洋子, 他.(1997). 人工肛門保有者のべんもれの有無とQOLの関連. 日創傷オストミー失禁管理会誌, 1(2), 16-17.
- 藤田佳子.(2003). オストメイトのストーマの受容に関する和文献の検討. 日本赤十字広島看護大学紀要, 3, 87-94.
- 藤原恵美子, 川村三代, 佐藤文.(2007). 形状別皮膚保護材. 著: 日本ET/WOC協会, ストーマケア エキスパートの実践と技術, 東京: 照林社. 80-82.
- HaugenV, BlissDZ, SavikD. (2006). Perioperative factors that affect long-term adjustment to an incontinent ostomy. Journal of Wound Ostomy & Continence Nursing, 33(5), 525-535.
- 林玲子.(2015). 日本における健康寿命の推移. 著: 田宮菜奈子, 厚生労働科学研究補助金 グローバルエイジングへの国境なき挑戦 平成25年度 総括・分担研究報告書 24-33.
- 日野岡 蘭子.(2013). ストーマサイトマーキングの実際. 著: 松原康美, ストーマケア実践ガイド, 東京: 学研. 44-52.
- 檜森美和子.(2006). ストーマ造設患者の入院から外来への継続看護について, 日本ストーマ学会誌, 22(1), 31
- 平井孝, 加藤知行.(2000). ストーマ手術が原因となる合併症. 著: 穴澤貞夫(編), 穴澤貞夫(編), 実践ストーマケア, 中野区, 東京都: へるす出版. 128-133.
- 平野一美.(2014). 訪問看護ステーションとの連携強化の実現. 看護管理, 24(3), 215-221.
- 本間之夫, 柿崎秀宏, 後藤百万, 武井実根雄, 山西友典, 林邦彦.(2003). 排尿に関する疫学的研究.(排尿に関する疫学的研究委員会, 編) 日排尿機能会誌, 14(2), 266-277.

- 井上茜. (2008). ストーマセルフケア確立への術前からの取り組み ～患者と共に考える指導スケジュールと目標～. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌, 24(1), 86.
- 井上栄子, 安部淳子. (2014). 看看連携を基盤とする包括的な退院支援と在宅療養支援. 看護管理, 24(3), 244-252
- International Diabetes Federation. (2014). IDF DIABETES ATLAS Sixth edition. 参照日: 2015 年 6 月 28 日, 参照先: International Diabetes Federation:
http://www.idf.org/sites/default/files/Atlas-poster-2014_EN.pdf
- 一般社団法人日本老年医学会. (2014). フレイルに関する日本老年医学会からのステートメント. 参照日: 2015 年 12 月 12 日, 参照先: 一般社団法人日本老年医学会:
http://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20140513_01_01.pdf
- 石黒幸子. (2013). 「地域連携報告書」を活用した継続ケア. 著: 松原康美(編), ストーマケア実践ガイド, 東京: 学研. 191-195.
- 石原陽子. (2001). QOL 調査書の種類と特色, 選び方, 使い方. 著: 石原陽子編, 漆崎一朗監修, 新 QOL 調査と評価の手引き (第 1 版), 東京: メディカルレビュー社. 21-38.
- 石井光子. (2011). 腹腔鏡下直腸癌手術における一時的ストーマ造設患者在院日数短縮化に伴う皮膚・排泄ケア認定看護師の役割. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 15(2), 199.
- 磯谷文衣, 工藤せい子, 山辺英彰, 斉藤洋子, 鳴海肇子. (2000). 糖尿病性腎症患者の受診態度と性格特性の関係について. 日本看護研究学会雑誌, 23(1), 73-82.
- 磯崎奈津子. (2013). オストメイトの QOL に影響を与える要因 ストーマ外来受診状況に焦点をあてて. 日医大医会誌, 9(3), 170-175.
- 伊藤直美, 数間恵子, 徳永恵子. (2002). 退院後の消化器系永久ストーマ造設患者のための生活安定尺度の開発. 日本看護科学会誌, 22(4), 11-20.
- ItoNaomi, TanakaM, KazumaK. (2005). Health-related quality of life among persons living in Japan with a permanent colostomy. Journal of Wound Ostomy & Continence Nursing, 32(3), 178-183.
- 伊藤美智子. (2016). ストーマ保有者が遭遇する不安と対処. 著: ストーマリハビリテーション講習会実行委員会, ストーマリハビリテーション基礎と実際 第 3 版 (第 3 版). 金原出版. 22-26.

- 伊藤美智子、梶西ミチコ. (2003). オストミーリハビリテーションとは. 著: 伊藤美智子(編), ストーマケア. 東京: 学研. 84-89.
- JAET 活動調査委員会. (2006). JAET 活動調査報告. 著: 日本 ET/WOC 協会25周年記念誌編集委員会, 25周年記念誌 かけはし, 日本 ET/WOC 協会25周年記念誌編集委員会. 103-106.
- 貝谷敏子, 徳永恵子. (2004). ストーマのセルフケア指導. 著: 徳永恵子(編), ストーマセルフケアマニュアル, 大阪: メディカ出版. 129-150.
- Kald AKN, Hjortsvang H, Sjudahl RIJunl. (2008). Quality of life is impaired in patients with peristomal bulging of a sigmoid colostomy. *Scand J Gastroenterol*, 43(5), 627-633.
- 片岡ひとみ. (2004). コロストメイトとウロストメイトの健康関連 QOL について. *東北医学雑誌*, 116(1), 81-83.
- 片岡ひとみ, 上月正博, 舟山裕士, 佐々木巖, 熊谷英子, 高橋真紀, ほか. (2004). コロストメイトの QOL、健康状態、不安状態、及び抑うつ傾向の関係について. *日本ストーマ学会誌*, 20(2), 84-91.
- 片山妙恵 富山直輝 吉川法生. (2007). 在宅高齢障害者の外出状況とその不安に関する研究. *愛知作業療法*, 15, 38-41.
- 梶田叡一. (1988). 行動と経験における自己意識. 著: 梶田叡一, 自己意識の心理学 (第2版). 東京: 東京大学出版会. 19-76.
- 河口てる子. (2005). 看護師教育と実力. *Cardiovascular-Med-Surg*, 7(2), 31-35 (223-227).
- 川上禎則, 西口幸雄. (2012). 術前ストーマ外来の現状と今後の課題. *日本ストーマ・排泄会誌*, 28(2), 11-16.
- 木谷幸太郎, 他. (2013). 一時的ストーマ造設術と課題. *STOMA*, 20(1), 22-24.
- 久保健太郎, 本田優子, 日月亜紀子, 井上透, 西口幸雄. (2015). 認知症オストメイトのストーマケアに関する文献レビュー. *STOMA*, 22(1), 76.
- 小坂智恵子. (2014). 在宅医療を支える医療機関が果たす役割. *看護管理*, 24(3), 222-228.
- 小松裕子. (2013). がん医療が直面する課題と施策. 著: 小松裕子, 系統看護学講座 がん看護学, 東京: 医学書院. 14-18.
- 小林陽子. (2013). 認知症患者へのケア. 著: 松原康美, ストーマケア実践ガイド, 東京: 学研. 127-131.

- 国武ひかり, 佐藤郷子, 野明俊裕, 荒木靖三, 高野正博. (2015). 高齢者における便失禁の有症率と関連因子. 日本ストーマ・排泄会誌, 31(3), 72-82.
- KollerK, RockwoodK. (2013). Frailty in older adults: implications for end-of-life care. Cleve. Clin.J. Med., 80(3), 168-174.
- 国立がんセンターがん対策情報センター. (2015). 2015 年のがん統計予測. 参照日: 2015 年 5 月 18 日, 参照先: がん情報サービス:
http://ganjoho.jp/public/statistics/pub/short_pred.html
- 国立社会保障・人口問題研究所. (2011 年 3 月 10 日). 第 6 回世帯動態調査 結果概要. 2009 年 社会保障・人口問題基本調査 , 3-6
- 公益財団法人がん研究会. (2012). 大腸がんの肛門温存手術. 参照日: 2015 年 9 月 19 日, 参照先: 公益財団法人がん研究会: <http://www.jfcr.or.jp/cancer/type/colon/003.html>
- 公益財団法人長寿科学振興財団. (2014). フレイルについて. 参照日: 2015 年 12 月 4 日, 参照先: 健康長寿ネット: <http://www.tyojyu.or.jp/hp/page000006800/hpg000006791.htm>
- 厚生労働省 . (2013). 平成 24 年(2012)医療施設(動態)調査・病院報告の概況. 大臣官房統計情報部人口動態・保健社会統計課保健統計室.
- 厚生労働省. (2013). 平成 24 年度診断群分類(DPC)電子点数表(平成 25 年 11 月 19 日更新). 参照日: 2015 年 5 月 3 日, 参照先: 厚生労働省:
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/03/tp0305-02.html>
- 厚生労働省. (2014). 平成25年国民健康・栄養調査結果の概要. 参照日: 2015 年 6 月 28 日, 参照先:
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000068070.pdf>
- 厚生労働省. (2015 年 4 月). 認定調査員テキスト 2009 改訂版(平成 27 年 4 月改定). 参照日: 2016 年 1 月 3 日, 参照先: 要介護認定:
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000077237.pdf>
- 厚生労働省大臣官房統計情報部. (2014). 平成 26 年我が国の人口動態. 厚生労働省大臣官房統計情報部.
- 厚生労働省保健局医療課. (2012). 平成 24 年度診療報酬改定関係資料(DPC 制度). 参照日: 2015 年 5 月 3 日, 参照先: 厚生労働省:
http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryohoken/iryohoken15/dl/h24_02-08.pdf

- 厚生労働省保健局医療課. (2013). 診断群分類(DPC)電子点数表(平成25年11月19日更新).
(厚生労働省, 編) 参照日: 2014年6月28日, 参照先: 診断群分類(DPC)電子点数表
について: <http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/03/tp0305-02.html>
- 厚生労働省医政局医事課長. (2011). ストーマ装具の交換について. 参照日: 2015年7月5日,
参照先: 日本オストミー協会:
<http://www.joa-net.org/contents2/jp/infodwnloads/stoma%20ap.ex.pdf>
- 厚生労働省 健康局健康課. (2015年12月9日). 平成26年国民健康・栄養調査結果概要. 参
照日: 2016年5月5日, 参照先: 厚生労働省 :
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000117311.pdf>
- 厚生労働統計協会. (2013). 身体障害者の状況. 国民衛生の動向・厚生 の指標 増刊, 60(9),
118-119.
- 工藤泰宗, 伊藤由里絵, 梅原豊, 他. (2011). 消化管ストーマ造設例の術後合併症 ～粘膜皮膚
接合部離開例の検討. 日本ストーマ排泄リハビリテーション学会誌, 27(1), 141.
- 工藤礼子 a. (2013). ストーマの高さがスキンレベルの患者のケアと装具選択. 著: 松原康美, ス
トーマケア実践ガイド, 東京: 学研. 121-126.
- 工藤礼子 b. (2013). セルフケアに消極的な患者へのケア. 著: 松原康子 編, ストーマケア実践
ガイド, 東京: 学研メディカル. 132-136.
- 久米淳子, 岸岡陽子. (2014). 診療報酬未加算分野における先進的な取り組み. 看護管理,
24(3), 253-258.
- LianLei, WuXian-Rui, HeXiao-Sheng, et al. (2012). Extraperitoneal vs. intraperitoneal route for
permanent. Int J Colorectal Dis, 27, 59-64.
- 前田耕太郎, 丸田守人, 松本昌久, 他. (2004). ストーマリハビリテーションにおける医療連携.
日本ストーマ会誌, 20(1), 9-13.
- 前田隆子 宗像恒次. (2005). 遠隔期における胃切除後患者のセルフケア行動と心理社会的要
因に関する行動科学的研究. 臨床看護, 31(7), 1120-1126.
- 前川厚子. (2005). 健康障害のある人の QOL と今後の課題 ストーマ保有者の QOL と
Ostomate's Self Adjustment Scale ver.2 の開発. 日本看護医療学会雑誌, 7(2), 55.
- Marquis PA, Jambon BMarrel. (2003). Quality of Life in patients with rectal cancer and an ostomy.
Ostomy Wound Management, 49(2), 48-50.

- 松原康子 a. (2013). ストーマを造設する患者への継続的ケア. 著: (編集)松原康子, ストーマケア実践ガイド, 東京: 学研. 8-13.
- 松原康美 b. (2013). セルフケア指導の実際. 著: 松原康美, ストーマケア実践ガイド, 東京: 学研メディカル. 90-96.
- 松原康子c. (2013). 外来における術前教育. 著: 松原康子 編, ストーマケア実践ガイド, 東京: 学研メディカル. 18-30.
- 松原康子d. (2013). ストーマ合併症と発生時のアセスメント. 著: 松原康子 編, ストーマケア実践ガイド, 東京: 学研メディカル. 198-200.
- 松原康子 e, 稲吉光子. (2013). チーム医療による外来でのストーマ造設術前教育の導入前後の比較検討, 日本ストーマ排泄会誌, 29(2), 14-23
- 松原康美f. (2013). ストーマ閉鎖術を受ける患者のケア. 著: 松原康美(編), ストーマケア実践ガイド 術前から始める継続看護, 東京: 学研. 188-190.
- 松原g康美. (2013). ストーマ外来における継続的ケア. 著: 松原康美, ストーマケア実践ガイド, 東京: 学研. 152-157.
- 松本成史. (2014). 下部尿路症状の疫学. *Geriatric Medicine*, 52(9), 1035-1039
- 松岡美木(編集). (2015). セルフケア能力のアセスメント. 参照日: 2015年12月25日, 参照先: アルメディア WEB:
<http://www.almediaweb.jp/stomacare/medical/contents/selfcare/010.html>
- 箕浦洋子, 藤原由佳, 大迫しのぶ, 今川嘉樹, 岩崎美智子, 西久代, ... 安部陽子. (2015). 施設に属する専門看護師・認定看護師の施設外での活動等に関する実態調査. 第45回日本看護学会論文集, 138-141.
- 三富陽子. (2004). 在院日数短縮化に伴うストーマセルフケア確立への影響. 20(3), 45.
- 三宅泰裕, 池田公正, 土井貴司, 吉川宜輝. (2012). 化学療法施行中のストーマを保有する進行再発大腸癌患者の現状. *STOMA*, 19(1), 1-3.
- 宮崎啓子, 赤井澤淳子, 高橋純, 品田ひとみ. (2007). ストーマケア指導における患者満足度調査. 日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会誌, 11(2), 30-40.
- 森岡直子. (2006). 回復低位前方切除クリティカルパスにおけるストーマ造設患者専用パスの必要性. 日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会誌, 10(1), 27.

- 森田美香, 吉岡和彦, 畑嘉高, 中野雅貴, 岩本慈能, 米倉康博, ほか. (2006). アンケート調査によるストーマ造設患者におけるストーマ受容の解析. 日本大腸肛門病会誌, 59, 322-327.
- 永野みどり. (2004). 社会復帰時の援助. 著: 徳永恵子, ストーマセルフケア実践指導マニュアル, 大阪: メディカ出版. 184-200.
- 中川ひろみ, 古川晶子, 中北順子, 他. (2005). 当院消化器外科病棟のストーマ造設術における粘膜皮膚接合部離開と正中創離開の発生因子に関する検討. 日本ストーマ排泄リハビリテーション学会誌, 21(3), 59
- 中根実. (2013). がん病変に対する治療と緩和ケアの並行診療. 著: 小松浩子, 系統看護学講座 がん看護学 (第 2 版). 東京: 医学書院. 48-50.
- 中西恵美, 中務直美, 南裕恵, 山下八重子. (2014). 地域連携を視野に入れたストーマケアセミナーの検討. STOMA, 21(1), 50-52
- 中野真寿実, 栗原富江, 岩根弘栄, 越野明美, 橋本美樹. (2007). 装具装着が困難な場合の対処方法. 著: ET/WOC協会, ストーマケアエキスパートの実践と技術, 照林社. 97-98.
- 中浦絵理, 福岡ちひろ, 吉村稔. (2008). 在院日数短縮化に伴う効果的な術前ストーマオリエンテーションのシステムづくり-過去 3 年間のストーマ造設患者の実績調査より-. 24(1), 86.
- 難病情報センター. (2015). 特定疾患医療受給者証所持者数. 参照日: 2015 年 8 月 19 日, 参照先: 難病情報センター: <http://www.nanbyou.or.jp/entry/1356>
- 日本 ET/WOC 協会 関西ブロック. (2007). ストーマ装具の選択基準と判断. 著: 日本 ET/WOC 協会, ストーマケア エキスパートの実践と技術, 東京: 照林社. 68-79.
- 日本語版 EuroQOL 開発委員会. (1998). 日本語版 EuroQol の開発. 医療と社会, 8, 109-123.
- 日本訪問看護財団. (2014). どんな機関が、訪問看護をしてくれるの? 参照日: 2014 年 6 月 28 日, 参照先: 日本訪問看護財団: <http://www.jvnf.or.jp/homon/>
- 日本褥瘡学会. (2014). 専門性の高い看護師による訪問看護. 著: 日本褥瘡学会, 平成 24 年診療報酬改定 褥瘡関連項目に関する指針, 照林社. 67.
- 日本看護協会. (2011). 外来における看護の専門性の発揮に向けた課題. 参照日: 2014 年 6 月 28 日, 参照先: 日本看護協会: <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/fukyukeihatsu/gairaikango.pdf>

- 日本看護協会. (2013). 就業状況 出典:『平成25年 看護関係統計資料集』. 参照日: 2014年6月28日, 参照先: 看護統計資料室:
<http://www.nurse.or.jp/home/publication/toukei/pdf/toukei01.pdf>
- 日本看護協会. (2015). データで見る認定看護師. 参照日: 2015年5月3日, 参照先: 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者: <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>
- 日本オストミー協会. (2010). 訪問看護ステーションにおけるストーマケアに関する報告書. 参照日: 2015年7月5日, 参照先: 日本オストミー協会:
http://www.joa-net.org/contents/report2/pdf/stoma_care_2011.pdf
- 日本オストミー協会. (2011). 人工肛門・人口膀胱造設者の生活と福祉. 東京: 日本オストミー協会.
- 日本オストミー協会. (2013). オストミー用語集. 参照日: 2015年9月2日, 参照先: 日本オストミー協会: <http://www.joa-net.org/-category-13/#anc39>
- 日本オストミー協会. (2013). 平成25年度事業計画. 参照日: 2014年7月9日, 参照先: 公益社団法人日本オストミー協会: <http://www.joa-net.org/pdf/2ikak5.jigyokeu.pdf>
- 日本オストミー協会. (2006). 介護福祉士によるストーマ装具交換に関する調査報告書. 参照日: 2015年12月16日, 参照先: 日本オストミー協会: 日本オストミー協会
- 日本創傷・オストミー・失禁管理学会. (2013). ストーマ外来のある病院をさがそう. 参照日: 2015年4月22日, 参照先: Web版ストーマ外来 Stoma Care:
http://jwocm.org/web_stomacare/clinic.php
- 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会. (2012). 介護サービス担当者のためのストーマケア講習会. 参照日: 2015年7月11日, 参照先: 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会:
<http://www.jsscr.jp/kaigo.html>
- 日本創傷・オストミー・失禁管理学会. (日付不明). 皮膚・排泄ケア認定看護師について. 参照日: 2015年12月26日, 参照先: 日本創傷・オストミー・失禁管理学会:
<http://www.jwocm.org/public/nurse/>
- 野田美加. (2014). 専門性の高い看護を食欲に吸収していきたい. コミュニティケア, 16(12), 24-27.
- NPO法人キャンサーネットジャパン. (2014). 大腸がんではどのような治療が行われますか. (杉原健一, 編) 参照先: もっと知ってほしい大腸がんのこと:
<http://www.cancernet.jp/brc/booklet>

- 岡村菊夫, 後藤百万, 三浦久幸, 山口脩, 内藤誠二, 長谷川友紀, 大島伸一. (2000). 高齢者尿失禁ガイドライン. 平成 12 年度厚生科学研究費補助金事業.
- 大村裕子. (2000). 皮膚保護材の選択. 著: 穴澤貞夫(編集), 実践ストーマケア, 東京: へるす出版. 85-92.
- 大村裕子. (2004). ストーマのセルフケアを阻むもの. 看護学雑誌, 68(3), 210-213.
- 太田博文, 藤江裕二郎, 福永浩紀, 荻野宗之, 前浦義市. (2011). 大腸癌手術症例に対する術後回復強化(Enhanced Recovery After Surgery:ERAS)プロトコールの安全性と有効性の検討. 日本大腸肛門病学会雑誌, 64(4), 214-223.
- Pal L M, Manning L (2014). Palliative care for frail older people. Clin. Med., 14(3), 292-295.
- Pittman JSM, Schmidt CM, Grant M. Ko CY, Wemdel C, et al Rawl. (2008). Demographic and clinical factors related to ostomy complications and quality of life in veterans with an astomy. Journal of Wound, Ostomy & Continence Nursing, 35(5), 493-503.
- PittmanJ, KozellK, GrayM. (2009). Shoud WOC nurses measure health-related quality of life in patients undergoing intestinal ostomy surgery? Juournal of Wound, Ostomy & Continence Nursing, 36(3), 254-265.
- Prieto LH,Junl KThorsen. (2005). Development and validation of quality of life questionnaire for patient with colostmy or ileostomy. Healt Quol Life Outcomes, 3(62), 1-10.
- PrietoLuis, ThorsenHanne, JuulKristian. (2005). Development and validation of a quality of life questionnaire for patients with colostomy or ileostomy. Health and Quality of Life Outcomes, 62(3), 1-10.
- Ratliff R.Catherine, ScaranoA.Kathryn, DonovanM. Ann. (2005). Descriotive Study of Peristomal Complications. JWOCN, 32(1), 33-37.
- RoseSaboeSusan. (2005). アメリカにおける外来看護: 在院期間短縮の影響. 28(1), 59-64.
- 櫻井 有世. (2015). 在宅同日同行訪問に対する訪問看護師の反応に関する実態調査. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 19(3), 346-350.
- SchneiderBERic, CameronLJohne, BrookeSBenjamin, EfronJonathan, CameronLJohn, et al. (2012). Patient Readmission and Mortality after Colorectal Surgery for Colon Cancer: Impact fo Length of Stay Relative to Other Clinical Factors. American College of Surgeons, 214(4), 390-398.
- 斎藤一. (1980). 高齢者の労働能力. 著: 労働科学叢書. 労働科学研究所出版部.

- 斎藤訓子. (2014). 病院に期待される地域包括ケアシステムとの連携. 看護管理, 24(3), 208-214.
- 斎藤雅成, 藤原佳典, 小林江里香, 深谷太郎, 西真理子, 新開省二. (2010). 首都圏ベッドタウンにおける世帯高施別にみた孤立高齢者の発現率と特徴. 日本公衆誌, 57(9), 785-795.
- 斎藤典男, 塩見明生. (2013年7月4日). 大腸癌研究会プロジェクト研究「低位前方切除術における一時的人工肛門に関する多施設共同前向き観察研究」. 参照日: 2016年5月5日, 参照先: 大腸癌研究会:
http://www.jsccr.jp/project/pdf/dsstudy/201307DSstudy_gijiroku.pdf
- 柴田佳久. (2006). ストーマ造設患者に対する術前術後指導管理に対する他施設アンケート調査. 日本大腸肛門病学会誌, 59(2), 71-75.
- 渋谷 均. (2005). 高齢者ストーマケアの検討. 日本ストーマ会誌, 21(2), 63-66.
- 渋谷均, 佐々木賢一, 久木田和磨, 他. (2011). ストーマ外来の意義とストーマ造設法. 外科治療, 104(4), 397-401.
- 志田大, 井上暁, 田川京子, 稲田健太郎, 下園麻衣, 宮本幸雄. (2012). 新しい大腸癌手術着管理 enhanced recovery after surgery 80 例の経験. 外科, 74(5), 546-550.
- 清水久美子. (2015). 訪問看護の現場で生きる皮膚・排泄ケアの実践. コミュニティケア, 17(7), 60-63.
- 総務省, (2011).人口等基本集計結果. 参照日: 2015年11月3日, 参照先:総務省統計局:
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001034991&cycocode=0>
- 社会保険研究所. (2013). 医科点数表の解釈 (第 37 版). 社会保険研究所.
- 社団法人 日本オストミー協会. (1999). 第5回 オストメイト生活実態基本調査 調査報告書. 参照日: 2015年5月3日, 参照先: 日本オストミー協会:
<http://www.joa-net.org/contents/report1/pdf/report05.pdf>
- 積美穂子, 伊藤美智子, 梶西ミチコ, 井口美奈枝, 武田信子. (2003). 晩期合併症. 著: 伊藤美智子(編), ストーマケア, 東京: 学研. 174-189.
- 添島總子, 森山美知子, 中野真寿美. (2006). オストメイトのストーマ受容度とセルフケア状況およびストーマ受容影響要因との関連性. 広島大学保健ジャーナル, 6(1), 1-11.
- 祖父江正代, 前川厚子, 竹井留美, 藤田紀見, 袖里みどり, 井口弘子. (2006). ストーマ保有者が受けたケアと自己適応との関連性の分析. 日創傷オストミー失禁管理会誌, 10(2), 30-39.

- 杉原健一(監修).(2014). 大腸癌のこと. 参照日: 2015年4月18日, 参照先:
<http://www.jsccr.jp/pdf/daicyougan2015.pdf>
- 杉田千枝, 時野谷美夏.(2015). ストーマ造設に関する現状からストーマ外来の運用について検討する. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌, 31(1), 132.
- 高木良重, 田中英子, 溝上祐子, 室岡陽子, 稲田浩美, 高橋純.(2013). 2012年日本創傷・オストミー・失禁管理学会会員活動調査報告. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 17(4), 336-350.
- 高橋真紀, 熊谷英子.(2004). 術後の局所管理. 著: 徳永恵子(編9, ストーマセルフケア指導マニュアル (pp: 104-127). 大阪: メディカ出版.
- 高島尚美, 村田洋章, 渡邊知映.(2010). 在院日数短縮に伴う消化器外科外来における周術期看護の現状と課題: 全国調査による看護管理者の認識. 慈恵医大誌, 125, 231-8.
- 高見沢恵美子, 佐藤禮子.(1999). 手術による人工肛門造設患者の主観的な Quality of Life の変化に関する縦断的研究. 日本がん看護学会誌, 13(1), 35-42.
- 竹井 尚子.(2013). 化学療法を受けている患者のストーマケア. 著: 松原康美(編), ストーマケア実践ガイド; 術前から始める継続看護, 東京: 学研. 170-177.
- 田澤賢次.(1989). 皮膚障害. 著: ストーマリハビリテーション講習会実行委員会, ストーマの基礎と実際, 東京: 金原出版. 243-260.
- 玉川結美, 圓井比呂美, 小泉美紀, 山下真季, 中村純一.(2014). 術後初回ストーマ外来受診の適切な時期の検討. 日赤医学, 66(1), 280.
- 田中秀子, 佐藤文, 稲田浩美, 赤井澤淳子, 室岡陽子, 山坂友美, ほか.(2014). 介護職によるストーマ装具交換に関するワーキンググループの活動報告. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 18(4), 365-370.
- 徳永恵子.(2004). ストーマのセルフケア指導. 著: 徳永恵子(編集), 消化器外科 NURSING2004 秋季増刊 そのまま使えるストーマ・セルフケア実践指導マニュアル, 東京: メディカ出版. 130-150.
- 徳永恵子.(2009). 直腸がん治療における WOC(皮膚・排泄ケア認定看護師)看護師の役割とその存在意義. 大腸がん FRONTIER, 2(3), 68-71.
- 辻仲眞康.(2011). ストーマ造設を伴う大腸癌患者の術後在院日数の短縮に向けた等価の取り組み. 27(1), 83.

- 内野基, 松岡宏樹, 坂東俊宏, 他. (2015). 潰瘍性大腸炎に対する肛門温存手術後の問題 -回腸嚢炎の現状と対策-. 兵医大医会誌, 39(2), 53-58.
- 宇野光子. (2004). ストーマ造設術後の在院日数と退院直後のストーマ管理状況に関する検討. 日本ストーマリハビリテーション学会誌, 20(3), 45.
- 山羽能吏子. (2014). 認定看護師による「専門看護相談」の取り組み. 看護管理, 24(3), 270-272.
- 山本直子, 久保公子, 田上ふさ恵. (2012). 尿路変更患者の退院支援への取り組み. 泌尿器ケア, 17(10), 97-102.
- 山本聖一郎. (2012). 直腸癌に対する腹腔鏡手術で人工肛門を造設した患者の術後入院期間の短縮化に向けて. 65(9), 727.
- 山本幸恵. (2013). ストーマ造設患者在院日数における当院の現状. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌, 29(1), 151.
- YoungHeeSung, IngakKwon, SunghoJo, SeungmiPark. (2010). Factor Affecting Ostomy-Related Complicationw in Korea. J wound Ostomy Continence Nurs, 37(2), 166-172